歌にのせて ふるさとを想う

ジャズピアニストの加藤（かとう） 景子（けいこ）さん（左）とびわ湖トワを作詞した野上（のがみ） 涼子（りょうこ）さん姉妹

2021年、あけましておめでとうございます。

守山市制施行50周年を記念する事業の多くが、新型コロナウイルス感染症の影響で、本年に延伸されています。年越しの祝賀ムードと前向きに切り替えて、ふるさと守山のまちを力強い1年にしていきたいと考えています。

姉妹で新しいびわ湖の歌「びわ湖トワ」を制作発表し、市制施行50周年記念事業にも出演予定の守山市出身ジャズピアニスト加藤 景子さんと野上 涼子さん姉妹にお話を伺いました。

ジャズの魅力をふるさとへ　ふるさとの魅力を全国へ届けたい

―私の両親は守山市が誕生した、ちょうど50年前に引っ越してきました。だから両親は守山市民50歳です。私たち姉妹はその後に生まれました。

たくさんの思い出が湖国の演奏活動支える

びわ湖に遊びに行ったり、夏には夜の湖面を彩る花火大会を観たり、家族でたくさんの思い出をこのまちで作りました。家族旅行もたくさんしました。

野上さんと加藤さん姉妹が音楽と出会ったのもこのまち。通っていた教室で弾いていた電子オルガンの音色です。

加藤さんは18歳で上京してジャズピアニストの夢を叶えました。野上さんも今は市外に住んで小学校講師をしながら趣味のゴスペルを楽しみ、仲間と一緒に加藤さんの演奏活動を支えています。

◇

―それぞれの道を歩いていた姉妹を再び一つにしたのは、家族であり、ふるさとに悠然と横たわるびわ湖です。

びわ湖愛でつないだ姉妹の絆が曲になった

加藤さんはびわ湖を臨むふるさとを離れて暮らすからこそ故郷への思いが募り、野上さんは湖国の子どもたちとふれあう暮らしから、びわ湖への愛が募ったといいます。「新しいびわ湖の歌」の募集を知った時も、「びわ湖がテーマならいくらでも歌詞ができる」と思ったそうです。

野上さんの作詞に加藤さんがメロディーをつけて完成した「びわ湖トワ」。ゴスペルのチームで審査に臨み、最優秀曲に選ばれCDが制作されました。姉妹がふるさと守山への想いをこめて制作した曲です。

野上さんによると、1番と2番は誰もが懐かしいと思うような美しいびわ湖の情景をつづり、3番はふるさとを離れてがんばっている人へのエール。4番はびわ湖を永遠に守っていきたいという未来への思いをつづりました。

「びわ湖トワ」についてはこちら→

YouTube

Facebook

加藤さんは東京を拠点に、野上さんは県内を拠点に、新しいびわ湖の歌を広めたいと活動しています。帰郷の時だけでなく東京など全国コンサート会場でも「びわ湖トワ」を演奏しています。

◇

―50年の歩みの中で、まちにさまざまな種がまかれたと思います。これからの50年は種が育ち、新しい息吹が生まれていく時代ではないでしょうか。

悠久のびわ湖とともにピアノの音も歌も未来へ

野上さんと加藤さんは守山の発展とともに育ち、まちを離れた今も「心を穏やかにしてくれる場所」として大切に想っています。離れて暮らしているからこそ愛しい、ふるさと守山。

今は東京を拠点にジャズピアニストの活動を続けている加藤さんですが、いつか守山に帰ってきたいと話していました。ジャズの魅力を守山の人たちに、びわ湖と守山の魅力を全国の人たちに届けていくのが未来への抱負といいます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの演奏機会を失いました。生活スタイルも変化がありました。しかし、野上さんと加藤さんはリモート演奏会など、さまざまな形で音楽を発信しています。できることを模索しながら「チャンス」と考え、困難の先には新しい時代の扉が開くかもしれないと、前を向いて過ごしています。

姉妹で湖国と東京のかけ橋となり、次の50年は「びわ湖トワ」を皆が歌ってくれるようになればと思います。